

北極・南極

研究の最前線

参加費
無料

Day1：南極

Day2：北極

《第1部》第66次南極地域観測隊に参加した大野浩准教授が、南極氷床内陸部(ドームふじ基地)における調査研究の最新の動向を紹介します。

《第1部》砕氷船に乗船して北極海で海水調査を行ってきた舘山一孝准教授が、北極海調査の歴史と日本初の北極域研究船を使った北極海研究の最新の動向について紹介します。

《第2部》国立極地研究所から4月に着任された村瀬清華助教が北極・南極でのオーロラ現象に関連する観測研究の最前線と、北海道でのオーロラ観測の展望をお話しします。

《第2部》北極海での現地観測結果から環境変動について紹介します。

日時 令和7年6/2(月)・3(火) 18:00~20:10 (両日)

【Day1・第1部】
6/2(月)
18:00~19:00

南極氷床内陸調査の最前線

〔講師〕社会環境系・准教授 大野 浩



南極氷床の内陸部は地球上でもっとも寒冷で、人間活動から隔離された地域です。この特異な環境で行われている、氷床コア解析による古環境復元をはじめとした調査研究の最近の動向を紹介します。

極地から見つめる空と宇宙のはざま ～オーロラから何がわかる？～

〔講師〕情報通信系・助教 村瀬 清華

【Day1・第2部】
6/2(月)
19:10~20:10



高度100~500 kmで光るオーロラは、まさに地球大気と宇宙のはざままで起こる現象です。オーロラの基本知識から、北極・南極での観測を中心とした最近の研究、そして今後の北海道での低緯度オーロラ観測の展望をお話しします。

【Day2・第1部】
6/3(火)
18:00~19:00

北極海を探る～北極探検時代から 日本初の北極域研究船まで～

〔講師〕社会環境系・准教授 舘山 一孝



北極探検時代から北極海研究が始まり、地球気候システムの理解と環境変動の監視において重要な役割をしてきました。北極海における海水研究の歴史と概要、2026年に完成予定の日本初の北極域研究船みらいIIの概要について紹介します。

変わりゆく北極海 ～海水と海洋のダイナミズム～

〔講師〕未定

【Day2・第2部】
6/3(火)
19:10~20:10



温暖化の影響により急速な変化を遂げる北極海。縮小する海水面積と、激しさを増す海洋の波やうねり。それに伴う熱輸送の変化が、さらなる海水域の変動を引き起こしています。最前線の観測と理論研究から、その実態に迫ります。

北極・南極研究の最前線

【day1】令和7年6月2日(月)

第1部 18:00~19:00・第2部 19:10~20:10

日時

【day2】令和7年6月3日(火)

第1部 18:00~19:00・第2部 19:10~20:10

開催場所

北見工業大学 3号館2階 多目的講義室

申込概要

参加をご希望の方は、[申込フォーム \(QRコード\)](#) よりお申し込みください。QRコードからのお申し込みが難しい場合は、下記の間合せ先にご連絡いただくようお願いいたします。

申込フォーム こちらのQRコードからお申し込みください。



道民カレッジ



本講座を受講されますと、令和7年度 道民カレッジの単位として認定されます。

